第５学年　道徳学習指導案

は組　男子18名　女子20名　計38名
指　導　者　　益　満　　陽　平

1　主　題　名　　礼ぎの大切さ

２－(1) 時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接する。

2　主題について

(1)　主題の位置とねらい

この期の子どもたちは，礼儀の大切さを知り，誰に対しても真心をもって接しようと努力してきている。しかし，自分が置かれた状況によって，怠惰な感情や自己中心的な考え，羞恥心などが起こり，礼儀正しく行動することができないことがある。このようなことから，この期の子どもたちに，時と場をわきまえ，礼儀正しく行動することの大切さを理解させ，相手の立場になって接していこうとする態度を育てる必要がある。

本主題では，自分が置かれた状況によって，礼儀正しく行動できない場面で生じる心情や心情の変化を，自らの生活場面での内面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して，時と場を考え判断し，礼儀正しく行動することの大切さを理解し，相手の立場になって接していこうとする心情を育てることをねらいとしている。さらには，自分や他者の気持ちよさだけでなく，明るい社会を築いていくことに繋がることを実感し，これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は，時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接しようとする生き方をより深く追究していく学習へと発展していくことになる。

(2)　指導の基本的な立場

時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接しようとすることについて，人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

◎は重点的な学習内容

時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接しようとするためには，怠惰な感情や自己中心的な考えなどの心の弱さを乗り越えて，時と場を考え判断し，礼儀正しく行動することの大切さを理解し，相手の立場になって接していこうとする態度や意欲が求められる。それを支えるものが「自他の喜びや快い感情につながる」や「信頼関係が深まる」「明るく，楽しい生活を送ることができる」といった意義であり，「相手を尊重して思いやる気持ちをもつ」「時や場を考え，判断する」といった心構えであると考えることができる。

ここでは，時節をわきまえ，敬意や思いやりの心を形に表し，よりよい人間関係を築き，互いに人格を尊重し合って調和的に生きたいという願いを基に，時と場をよく考え，判断し，自ら礼儀正しく真心をもって行動し，他者とよりよい人間関係を築いていくことを目指した生き方とし，その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から，人間理解を深めていくこ

とになる。

具体的には，時と場を考え判断し，礼儀正しく行動することの大切さを理解し，相手の立場になって接していこうとすることが，自他共に快い感情になり，信頼関係が深まり，互いに明るく，楽しい生活ができるようになることなどを理解させる。一方で，時と場を考え判断し，礼儀正しく行動することの大切さを理解し，相手の立場になって接していこうと思いながらも怠惰な感情，自己中心的な考え，羞恥心などの心の弱さからなかなか実践できないことがあることにも気付かせる。そして，それらの弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには，時と場を考え，判断する，相手を尊重して思いやる気持ちをもつ，相手への感謝の気持ちをもつ，自分自身の言動を振り返るなどの心構えが大切であることも理解させる。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために，本主題では読み物資料「待合室で出会った少女」（文溪堂）を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

激しい歯の痛みで歯科医院に駆け付けた主人公の「わたし」は，玄関に乱雑に脱がれた靴を足でよけ，自分自身の靴を脱ぎ捨てて中に入る。その後，医院にやってきた女の子が，玄関に脱ぎ捨てられた靴を丁寧に整理してから中に入ってくる。その女の子の姿に主人公は心を打たれ，「ありがとう」とお礼を伝え，さらに自分自身の行動を反省するという内容である。

この資料を扱うに際し，話の内容の理解を深め，主人公の心情に十分に触れさせるために，録音ＣＤや一枚絵を活用する。また，子どもたちの生活場面を振り返らせ，そこでの心情と主人公との心情を関係付けて類推させるようにし，主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には，まず資料の一読後の感想から，乱雑に靴が脱ぎ捨てられた玄関の様子に気付きながらも中へ入っていく主人公の心の弱さを共感的に追究させる。次に主人公が丁寧に靴を整理する女の子の姿を見る中で気付いた，時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接することにかかわる意義・心構えを多面的に追究させる。その際，自分の生活の経験を基に，根拠を明確にし，中心となる意義・心構えについて重点的に対話活動を行う。また，**学習を通して大切に感じたことを実際の生活場面で具体的にあてはめて考えさせたり，道徳的判断力を発揮して思考する子どもの姿を見取った中で，あまり発揮が見られていないことを通して思考させたりすることで，明るく，楽しい生活につながるというよさについて，さらに深く広く追究させるようにする。**

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は，時と場をよく考え，判断し，自ら礼儀正しく真心をもって行動し，他者とよりよい人間関係を築いていくことを目指す生き方をしていこうとする喜びや楽しさにつながるものであると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接しようとすることにかかわる経験や，実践を阻む心の弱さ，実践を支える見方・考え方・感じ方（意義・心構え）等についての認識は以下のとおりである。

［表１］ 礼儀正しい行動の経験（総反応数５４）とその時の感情（総反応数４９）

経　験	反応数(人)	経　験	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
あいさつをする(相手の目を見る等)	１７	話を聞くときに姿勢を正す	3	次の人や相手に気持ちよく過ごしてほしい	１６
感謝の言葉を伝える	１２	落し物を拾う	1	自分が気持ちよく過ごせる	１２
正しい言葉遣いで話す	7	話を静かに聞く	1	周りの人に気持ちよく過ごしてほしい	１１
トイレのスリッパを並べる	4	素直にあやまる	1	感謝の気持ちを伝えたい	5
電車・バスで席をゆずる	4			周りの様子をしっかりと考える	3
着ていく服装を考えたり整えたりする	4			当たり前だ	2

［表２］ 礼儀正しく行動できなかった経験（総反応数４６）とその時の心情（総反応数４６）

経　験	反応数(人)	経　験	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
あいさつができない	１６	時間を守らない	3	怠惰な感情(面倒だ，疲れている)	１５
電車・バスで席をゆずらない	9	謝らない	2	自己中心的な考え（急いでいる）	１４
お礼の言葉を言わない	7	割り込み乗車をする	1	羞恥心（知らない人だと恥ずかしい）	8
電車・バスの車内で話す	5			楽観的な考え（少しくらいいいだろう）	7
履物をそろえない	3			思慮不足（断られるのが嫌だ）	2

［表３］実践を支える見方･考え方・感じ方（意義・心構え）についての認識　総反応数（１０１）

	見方・考え方・感じ方	反応数(人)		見方・考え方・感じ方	反応数(人)		見方・考え方・感じ方	反応数(人)
対自己	うれしい・すっきりする	１４	対他者	うれしい・すっきりとした気持ちになる	１９	対集団・社会	明るく楽しい気持ちで生活できる	１８
	自分から進んでする	１０		お互いに信じ合うことができる	８		お互いに信じ合うことができる	１２
	自分が成長することができる	７		感謝の気持ちをもつ	５		安心して生活できる	１
	礼儀の意味を考える	３		相手を尊重する	２		周りを見て考えて行動する	１
	素直になる	１						

［表１］の「次の人や相手に気持ちよく過ごほしい」「自分が気持ちよく過ごせる」「周りの人に気持ちよく過ごしてほしい」等の感情が多いことから，礼儀正しく行動することのよさを理解し，行動した経験が多いことが考えられる。しかし，それらのことを理解しながらも，［表２］から「面倒だ」，「急いでいる」といった感情から，自分が置かれていた状況によって礼儀正しい行動ができないことがあることにも気付いていることがわかる。また，［表３］から，「自分だけでなく，相手や社会全体が明るい気持ちで生活することにつながる」という意義を感じている子どもが多いことがわかる。しかし，そのことを支える「感謝の気持ちをもつ」「相手を尊重し，思いやる」「周りを見て，考えて行動する」といった気持ちや考えを感じている子は少ないことがわかる。これらの実態から，さらに自分の生き方とのかかわりを意識しながら追究できるように，「自分だけでなく，相手や社会全体が明るい気持ちで生活することにつながる」「相手を尊重して思いやる気持ちをもつ」「相手への感謝の気持ちをもつ」「時や場を考え，判断する」という意義・心構えについて重点的に扱ったり，日常生活における体験との関連を図ったりする必要がある。

一方，道徳の時間において，本学級の子どもたちは，問題意識をもって学習に取り組む姿は見られるが，互いの考えを比較し，関係付けながら，道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を十分に深め，広げるまでに至っていない。そこで，多様な見方・考え方・感じ方に触れさせる中で，**学んだことが本当に大切なのかを深く考えさせる問いかけを行ったり，具体的な生活場面を想起させて自分の生き方とのかかわりを意識させながら追究させたりといった働きかけを具体化していく。**

(4)　指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては，時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接しようとする生き方のよさの実感を深める中で，子どもたちがこれまでの生活の中で体験して感じてきた道徳的価値にかかわる意識が，これからの生き方へと連続し，発展していくようにしたい。

ア　切実な問題意識をもたせるために，これまでの体験の中で礼儀正しい行動とはどんなことかを考えさせ，自分自身が理解していることと実際の生活場面での気持ちを対比させ，その矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ　主人公の心情や心情の変化に共感させ，ここでの意義・心構えへの見方・考え方・感じ方を十分に深めたり広げたりできるように，主人公の心情が大きく変わる要因となった，自分から靴を整理して中に入ってきた女の子の行動を見ている場面に焦点化する。また，主人公が気付かされた気持ちや考えを追究する際は，学校生活や家庭や地域生活における自分の体験での内面と関係付けて類推させ，実践を支える意義等や，よりよい実践を阻む弱さを追究させる。その際，重点とした指導内容の要素にかかわる意義等について，それぞれの考えやその根拠を明確にさせながら，お互いの考えを比較したり関係付けしたりして対話活動を行う。その際，グループや全体で話し合う場を設定して話し合わせながら，**学んだことに対して，「そのことは，本当に大切なのだろうか。」と問い返したり，学んだことを生かすことができる具体的な生活場面を想起させたりして，道徳的価値にかかわる見方・考え方・感じ方をさらに深めたり，広げたりさせたい。**

ウ　この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め，これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めるために，主人公の生き方を基に，自分の生き方を振り返らせる。その際，書く活動を取り入れ，自分の生き方の中で大切にしたいという思いを実際に生かせそうな場面を考えさせたり，生かすことを拒みそうな自分の弱さを考えさせたりしながら，自分のこれからの生き方について具体的なイメージをもつことができる場を設定する。

3 本　時

(1) ねらい

ア　時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接することにかかわる自分自身の生き方を見つめ，自分自身のもつ心の葛藤を乗り越えて，時と場を考え判断し，礼儀正しく行動しようとする気持ちを高めることができる。

イ　時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接することにかかわる見方・考え方・感じ方を自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら深めたり，広げたりすることができる。

ウ　怠惰な感情，自己中心的な考えなどの心の弱さから，自分が置かれた状況によって，礼儀正しく行動ができないことがあることに気付き，時と場を考え判断し，礼儀正しく行動することの大切さを理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

学習する道徳的価値について，見方・考え方・感じ方をより深めたり広げたりさせるために，対話活動の際に，**学んだことが本当に大切かどうかを深く考えさせる問いかけを行ったり，学びを生かすことができそうな具体的な場面を想起させたりする。**

(3) 実　際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1　考えていきたい問題に気付く。 分かっているけれど，面倒だ。 ⇔ 相手だけでなく，自分も気持ちがいい。 礼儀正しく行動するためには，どんな気持ちや考えが大切だろう。	(分) 7	○　切実な問題意識をもたせるために，礼儀正しい行動について理解していることと，実際の生活での心情を発表させ，それらの矛盾から問題意識をもたせる。
さぐる	2　資料「待合室で出会った少女」を読み，考えていきたい問題について話し合う。 (1)　主人公の心情，心情の変化について感想をもち，考えていきたい場面を選択する。 (2)　主人公の心の弱さや，女の子の姿を見て，大切な気持ちや考えに気付いた主人公の心情について話し合う。 【心の弱さ】 めんどうだな。（怠惰な感情） ↓ 私だけじゃない。（自己中心的な考え） ↓ 並べるのは，恥ずかしい。（羞恥心） 心の葛藤 【女の子の姿を見た主人公の心情】 ・　他人の靴まで並べてくれてありがとう。 ・　整然とすると気持ちがいいな。 ・　次は自分も行動に移そう。	14	○　資料を感動的に読み取らせるために，録音ＣＤや場面絵を効果的に活用する。 ㊙「待合室の玄関で靴を脱ぐ時，わたしはどんなことを考えただろう。」 ○　わたしの気持ちを自らの体験場面での内面と関係付けて類推させるために，共感できるわたしの気持ちから自己の経験について想起させる。 ㊙「女の子の姿は，わたしにどんな気持ちや考えの大切さに気付かせたのだろう。」 ○　道徳的価値に対する見方等を深めたり広げたりさせるために，重点となる指導内容の要素について，自分の考えを明確にさせながらグループで話し合わせる。 ○　グループでの話合いの際は，それぞれの考えの背景にある生活経験と関連させながら話し合ったことを整理させる。その後，整理した考えのそれぞれを話合いシートに記入して黒板に貼り，全体の話合いでそれぞれの考えを共有しやすいようにする。
見つける	【意　義】気持ちがすっきりする→進んで行動したい→相手もすっきりする→信じ合える→みんなが楽しく，気持ちよく生活できる→みんな安心して生活することができる 【心構え】時と場を考え，判断する。相手を尊重して思いやる気持ちをもつ。相手への感謝の気持ちをもつ。自分から進んで行動する。勇気をもつ。素直な気持ちをもつ。自分自身の言動を振り返る。　など (3)　主人公の生き方を振り返り，自分と友だちの考えを見比べ，感じたことや考えたことを発表し合う。 今までの生活で，時と場を考え，判断するということは，あまり考えたことなかったな。	14	**○　全体の話合いでは，話し合ったことを自分の生活における具体的な場面を想起させて発表させたり，「大切にしたい思いや考えは，本当に大切だろうか。」と問いかけを行うことで，道徳的価値に対する見方等をより深めたり広げたりさせ，自分の考えをまとめていけるようにする。**
深める	3　学習したことを振り返り，礼儀正しく行動するためには，どんな気持ちや考えをもつことが大切か，自分なりの考えをまとめる。 相手への思いだけでなく，時と場をしっかりと考えて行動にうつすことが，礼儀正しいということなんだ。電車の中で，恥ずかしがらずに席を譲ってみたいな。 	8	○　学んだことを自分の生活とのかかわりの中で考えさせるようにするために，ワークシートを活用し，自分なりの考えをまとめさせる。 その際，学習した道徳的価値に対し，自分がこれからの生活の中で大切にしたい気持ちや考えをどのような生活の場面で生かせそうか，生かすことを拒みそうな自分の弱さは何かといった視点で考えさせる。
見通す	4　時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接することにかかわることについて教師の説話を聞く。	2	○　子どもたちの課題が連続・発展し，実践化が図られるようにするために，ここでの意義や心構えに関係の深い写真を見せながら，説話を行う。